

# ゆめ・まち・みらい vol.39

阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動  
「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」グループ従業員向け情報誌 [2018年秋号(年4回発行)]



ぜひご家庭でも  
お読みください

## 鉄道のように 「つなぐ」ことで生まれる 価値を大切にしてほしい

ゆめ・まち・みらい トップインタビュー

### 秦 雅夫

(阪神電気鉄道株式会社 代表取締役社長  
兼 阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役副社長)



#### ● 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 助成対象団体レポート

#### ● 西日本豪雨 こども達への緊急・復興支援レポート 「公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」

#### ● グループ従業員の ボランティア活動レポート



#### ソーシャルグッズ 読者プレゼント

詳しくは  
裏表紙へ



阪急阪神ホールディングスグループ

## こちら事務局

### お買いものを通じて、楽しく社会貢献を♪ 第11回ゆめ・まちフェアトレード商品販売会

六甲ガーデンテラス「ホルティ」から、フェアトレードチョコレートや、ぬくもりを感じる雑貨類、安全にこだわった食品・お酒などを多数ご用意。自分へのご褒美、職場でのおやつ、クリスマスプレゼントにフェアトレード商品はいかがですか? ぜひお越しください!!



開催日程 各日 11:30~14:00(※宝塚会場のみ11:30~14:30)

- ① 12月 3日(月) 阪急電鉄本社ビル 1F エコルテホール  
☆同時開催☆障がい者による手作り商品販売会  
(阪急電鉄 人事部主催)
- ② 12月 4日(火) 宝塚大劇場 1F 統括大会議室
- ③ 12月 7日(金) **NEW** 東阪急ビル 9F 阪急阪神不動産会議室
- ④ 12月11日(火) 阪神電気鉄道本社ビル 10F ホール  
☆同時開催☆障がい者による手作り商品販売会  
(阪神電気鉄道 人事部主催)
- ⑤ 12月13日(木) KHD東京ビル 8F 会議室
- ⑥ 12月14日(金) 第一ホテル東京 B3F 第3会議室
- ⑦ 12月19日(水) ハービスOSAKA 14F 阪急交通社リフレッシュルーム
- ⑧ 12月21日(金) 大阪新阪急ホテル B2F 従業員食堂別室

お支払方法:PiTaPa決済、現金支払(12月13日・14日開催分は、現金支払のみ)  
※200円お買い上げごとに社会貢献ポイント1ポイントGET! ぜひお越しください!

### ロハス度チェック「あなたのロハスを見つけよう!」で 自分に向いている被災地支援ボランティアを見つけてみませんか?

2018年に入り、痛ましい災害が続きましたね。今回のロハス度チェックでは防災をテーマにした選択式のチャートに回答しながら、自分にぴったりの被災地支援を見つけましょう。チェック用紙は、下記ゆめ・まちプロジェクトHPの従業員ページからダウンロードして、メール・FAX・郵送などでご提出ください。チェック用紙のご提出で、社会貢献ポイント(5ポイント)がたまります。また、参加者20人ごとに、六甲山の植樹活動に苗木を1本寄贈します。職場の皆さんで、ぜひご参加ください!

チェック用紙の提出先: 阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局  
住所: 〒530-0012 大阪市北区芝田一丁目16番1号  
TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174  
E-mail: yumemachi-point@hankyu-hanshin.co.jp

締切  
11月30日(金)

### 「書き損じハガキ寄付プログラム」実施予定! 書き損じハガキが西日本豪雨への支援金に!

誰でも気軽に参加できるボランティア「書き損じハガキ寄付プログラム」。皆さまからお預かりしたハガキを切手に交換し、7月に起こった西日本豪雨災害を受けた地域のこども達を支援するボランティア団体に寄付予定です。ご家庭の書き損じハガキをぜひお寄せください!

ハガキ回収期間: 2018年12月下旬~2019年1月末



## ソーシャルグッズ 読者プレゼント



4名様に  
プレゼント

### 西日本豪雨災害 チャリティープロジェクトTシャツ



サイズはメンズのLと  
レディースのLです

A SAVE WEST JAPAN (HIGEQLQ) B HOPE (design t-shirt store MO)

西日本豪雨の被災者のために何かしたい...そんな思いから、Tシャツ販売ウェブサイトHoimi内にチャリティープロジェクトが立ち上げられました。サイトには有志デザイナーによって無償でデザインされたTシャツが並び、商品代金の約6割が「平成30年7月豪雨災害義援金」へ募金される仕組み。チャリティーでなくとも欲しくなるデザインがずらり。ぜひチェックしてみてください!

価格/ABとも¥1,680(税別)  
販売/ Hoimi(ホイミ)~デザインTシャツマーケット~  
<http://hoimi.jp/contest/westjapan>

ご希望の方は下記事務局までメールでお申し込みください。メール件名を「Tシャツプレゼント希望」とし、「希望タイプ(A or B)」「希望サイズ(メンズorレディース)」「氏名」「所属会社・部署名」「送付先の住所・電話番号」「ゆめ・まち・みらいの感想」を明記してください。

応募締切: 2018年11月30日(金)

#### 編集後記

HPに掲載しているロハス度チェックシートは、提出することで六甲山での植樹活動に貢献できる、取り組みやすいボランティア活動です。社会貢献ポイントも進呈しますので、ぜひご参加ください!(武部 加那子)



フェアトレード商品販売会は、職場で気軽に参加できる社会貢献プログラムです!今年も、東阪急ビルでもフェアトレード商品販売会を実施します。お近くの会場へぜひお越しください!(中野 英里佳)



### 阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局

(阪急阪神ホールディングス 人事総務室 総務部 社会貢献担当)  
shakai@hankyu-hanshin.co.jp  
TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174  
URL: <https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/>  
※グループ従業員向けページの「ユーザー名」、「パスワード」は8984です。



「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」とは「未来にわたり住みたいまち」づくりをめざし、「環境づくり」と「人づくり」の分野で、グループ各社の社会貢献活動推進、市民団体の支援、従業員のボランティア活動の応援の3つに取り組み当社グループの社会貢献活動です。

阪急阪神 ゆめ・まち

検索



阪神電気鉄道株式会社 代表取締役社長 兼 阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役副社長 秦 雅夫

# 鉄道のように「つなぐ」ことで生まれる価値を大切にしてほしい

2017年から阪神電気鉄道株式会社のトップに就かれている秦 雅夫社長。沿線地域との関わりを重視してきた鉄道会社の視点で、企業における社会貢献活動や「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」(以下ゆめ・まちプロジェクト)が持つ意義、そして今後の展望などを語っていただきました。

性が高まっているICT教育と社会貢献とを結びつけた好例でしょう。私も見学しましたが、どの子どもも目を輝かせながら、受け身ではなく、自分たちで課題を見つけて解決しようとする姿に感心しました。

不透明な時代だからこそ、ことも達には「何のために生きるのか?」という倫理観・職業観のよなものが必要かと。チャレンジ隊のように、家庭や学校では提供できない「職業」そのものの体験や最新技術にふれる機会を提供できるのは、企業ならではの次世代育成の取り組みでしょう。

今後ただでテクノロジーが進化しても「夢」を描けるのは人間だけだと思います。劇的に変化するであろう未来をこども達が生き抜くために、これからもさまざまな「体験」の場を提供し、夢を描くために必要となる「好奇心」「探究心」を育てていきたいですね。

**異業種の方々と「協働」で推進力のある多面的な活動に**

ゆめ・まちプロジェクトでは「地域との協働」を柱に据えています。この「協働」はさまざまな活動の幅を広げる鍵だと思えます。2013年より始めた阪神電気鉄道の沿線活性化プロジェクト「ゆめ・まちプロジェクト」でも、この点を強く意識してきました。

神戸大学や兵庫医科大学と行っている「なるほど医学体験! HANSHIN健康メッセ」、武庫川女子大学の皆さんにご提案いただいた鳴尾駅の駅舎づくり、尼崎信用金庫と地域活



**阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト**

「未来にわたり住みたいまち」づくりを目指して、2009年よりグループ横断で行っている当社グループの社会貢献活動。実現にあたっては、グループ各社、地域(市民団体)、従業員との協働を柱に、以下の重点領域の活動を進めている。

- 地域環境づくり**  
安全・安心かつ文化的で、環境に配慮しながら発展する地域コミュニティづくり。
- 次世代の育成**  
未来の地域社会を担うこども達が、夢を持って健やかに成長する機会を創出。

① 尼崎車庫見学では、安全運行を支える現場を見学できる。② チャレンジ隊「阪神電車の安全を支えてみよう!」。線路や踏切、信号などの点検に挑戦。③ チャレンジ隊「今と昔の駅のお仕事を体験しよう!」。切符販売や駅構内アナウンスなどが体験できる。④ プログラボは、関東にも広がっている。⑤ 「時代のニーズに応えるもう一つとして、地域の安全・安心を高める取り組みを積極的に進めていくべき」と秦社長。阪急阪神の「あんしんサービス『ミマモルメ』」は、こどもの見守り体制の不安の解消に役立つ「登下校ミマモルメ」に始まり、GPS機能を使った位置情報確認サービス、さらにはこどもや高齢者の居場所を把握できる「まちなかミマモルメ」と内容が広がっており、伊丹市などの自治体で採用されている。⑥⑦ 「なるほど医学体験! HANSHIN健康メッセ」。⑧ 鳴尾駅駅舎のデザインは沿線の大学との「知縁」から生まれたもの。⑨ 市民団体との協働による「阪急阪神 ええまちづくり隊」。海辺の除草プログラム。

近年、生き方にも働き方にも選択肢が増えってきました。皆さんには当社の従業員という以前に、一人の社会人として何ができるのか、何をしたいのか、一歩踏み込んで考えてもらえたらと思います。そもそも通常の事業も、社会との関わりの中で続けられています。ですから、社会貢献活動と普段の業務とを分けて考える必要はなく、「地域社会を支える一員」という意識を強く持つ、積極的に行動を起こしてください。

来年で10年目となるゆめ・まちプロジェクトを、さらに発展させていくためのキーワードは「つなぐ」だと思えます。同じく10年目となる阪神ならば線も、神戸から奈良をつなぐことで、多様な人の動きを生み出しましたが、何かと何かをつなぐことは、新たな価値を生む原動力になり得るのです。そして、つなぐた人と人、まちとまち、さらにはそれぞれの想いまでも包み込む「器」の役割を、ゆめ・まちプロジェクトが担っていくことができたなら理想的ですね。

**つなぐた人と人、まちとまちを包み込む「器」であってほしい**

一方、加速度的に社会構造が変化しているなかで、社会貢献活動も時代の要請に応じていくことが求められます。

チャレンジ隊のひとつに、プログラミングに挑戦するものがあります。これは2016年から始まったロボットプログラミング教室「プログラボ」のノウハウを活かしたもので、近年、重要性が高まっています。

「未来の主役であるこども達に「体験の場」を提供し続けたい」

**鉄道会社の社会貢献活動は沿線地域との信頼関係が大切**

1905年の開業以来、阪神間の交通インフラを担ってきた阪神電気鉄道には、沿線地域を支え、ともに発展していく使命があります。その思いを強くしたきっかけは1995年に発生した阪神・淡路大震災です。自分達の住まいや家族も被災するなか、壊れた鉄道の復旧に努める現場作業員の姿に強く心を打たれ、同時に地域の基盤である鉄道会社として、地域とともに生きていかねばならないと強く決意しました。

そうした経験からも、当社グループの社会貢献活動においては、まずは鉄道を中心に営む事業をお客様に知っていただき、信頼を得続けることが何よりも重要だと思えます。「尼崎車庫の見学」や「阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊」の鉄道の保線プログラムなどは、まさに安全・快適に電車が走る「当たり前」を守るために日々、我々がどんな取り組みを行っているかをご理解いただく貴重な機会です。

series  
92

## 若者も、お年寄りも、 みんなが頼りにされる場所。

世帯の少子高齢化や核家族化が進む現代において、異なる世代間でのふれ合いが少なくなっている。そのため、こどもが成長する過程で以前は身近にあった、「大人の見守りと教育」という大切な機能が失われつつある。

「スマイルひろば」では、地域のお祭りや、みんなでお昼ご飯を食べる会など、さまざまな世代が楽しく交流できるイベントを行っており、孤立しがちな「若者世代」や「子育て世代」を、他の世代が応援できるきっかけづくりに一役買っている。こども達や子育て中の母親は、学校の先生や家族ではない人々と関わりを持つことで、自身の悩みを乗り越える糸口を見つけ、また、高齢者は、地域の若者達の成長を見守ることで生きがいを取り戻せたりと、どの世代においてもそのメリットは大きい。

“情に厚いのは、アマ(※)のええとこ。人と人をつなげることで、笑顔の花を咲かせたい!”そんな想いのもと、取り組みの幅を広げながら、地域の「一体化」「大家族化」をめざしている。(※)尼崎市

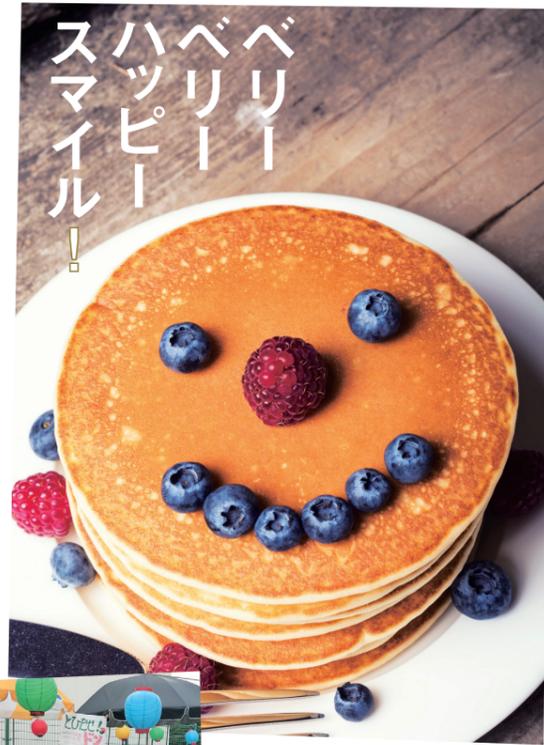
### NPO法人 スマイルひろば

TEL: 06-6439-6500

E-mail: smile.kanzaki2006@gmail.com

URL: <http://smilehiroba2006.wixsite.com/smilehiroba>

事務所: 尼崎市



多くの地域住民の「ご近所さん」関係を、楽しみながら築きあげている。

series  
93

## こどもだって、社会の一員。 一人ひとりの権利を守りたい。

アドボカシーという言葉は、聞いたことがあるだろうか? 権利擁護・代弁という意味で、自分の意思を示すことが困難な人に代わって、権利を支持したり意見を伝えることを指す。

家庭でも学校でも大人の都合に従順であることを求められるこどもは、自分の思いが届かず、無力感にとらわれて、声を上げることができなくなっていることが多い。そんなこども達のアドボカシーに取り組んでいるのが「子ども情報研究センター」だ。

ここでは友達や親、先生との関係など、こども達が誰にも言えずに抱えている悩みを何でも相談できる電話窓口を設置。こどもの目線に立ち、一緒に解決策を考えることで、誰かに「話せた」「話していいんだ」という自信と安心感を持てるよう、こどもの主体性の回復を支える。また、情報誌の発行や交流会など、こども達が自らの思いを大人に向けて発信できる機会を設け、自分の力で問題に立ち向かえるよう支援している。

こどもも大人と同じように一人の人格。等しく認められ、尊重される社会の実現をめざし、活動を続けている。



地域でこどもが過ごす場「つどいの広場」も提供している。



### 公益社団法人 子ども情報研究センター

TEL: 06-4708-7087

E-mail: info@kojoken.jp

URL: <http://www.kojoken.jp>

事務所: 大阪市



series  
91

## 「やりたい!」の気持ちを育てる。 可能性はムゲンダイ。

世界各国で約800~1000人に一人の割合で生まれると言われるダウン症候群(ダウン症)。全般的にゆっくり成長すると言われるが、人づきあいが上手で陽気だったり、細かい作業が得意だったり、優れている面もたくさんあり、その無邪気な笑顔は「天使」とも例えられる。

しかし、社会的にダウン症についての理解はあまり浸透していないため、妊娠中や出産後に我が子がダウン症であると告知された親たちは不安を感じ、子育てするなかで壁にぶつかってしまうことも多い。そこで、同じ思いや悩みを持つ家族が寄り添い、解決策や対処法を話し合える情報交換の場として立ち上げられたのが「NPO法人 ダウン症ファミリー総合支援めばえ21」。ダウン症のこどもを育てる親同士だからこそできるアドバイスをしたり、多くの人に理解を深めてもらうための勉強会を開いたり、こども達を中心に、その家族も自分らしく生きることができる社会をめざして活動を行っている。

2017年にオープンしたダウン症のこどもを持つ親が主体となって、医療や療育の専門家とともに「ダウン症専門の「児童発達支援・放課後等デイサービス」は、NPOとしては日本初の試みだ。ここではこども達の可能性を見つけ、伸ばすことを目的として、ピアノや習字、スポンジテニスや水泳など、多彩な応援教室を開催している。

こども達が「やってみよう!」と思うことに、何でも前向きにチャレンジできる機会を設ける。そのなかで、それぞれが得意

なことや好きなことを見つけ、「できた!」「やればできる!」という達成感と自信を持ってもらうことを目的とする。また、ダウン症があっても輝いている人達と交流するイベントなどを開催して元気やパワーをもらい、将来に向けた自己肯定感を育てるサポートなども行っている。

ダウン症は決して特別なことではなく、生まれついた個性のひとつ。こども達とその家族が前向きに成長し、いつも笑顔でいられるよう、啓発活動を続けている。



「できた!」の気持ちが、自分の将来を思い描くきっかけにつながる。

### NPO法人 ダウン症ファミリー総合支援めばえ21

活動のお手伝いをしていただけるボランティアを募集中です。詳しくはメール、またはお電話にてご連絡ください。

TEL: 072-737-8735

E-mail: mebae21osaka@gmail.com

URL: <http://mebae21osaka.wixsite.com/mebae21>

事務所: 箕面市

# グループ従業員の ボランティア活動レポート

従業員・OBの皆さまの参加するボランティア団体に、阪急阪神ホールディングスが上限3万円を支援する「ゆめ・まち「ええこと」応援団」。昨年度の支援先と、参加従業員・OBの方のコメントをご紹介します。

2018年度  
vol.3

初申請の4名を  
ピックアップ!!

大会参加費に使用。活動の幅が広がり、ありがたく思っています。



支援金を大会費用に。中学年も試合経験が積むことができました。



支援金でグラウンド整備用品やビデオカメラレコーダーを購入しました。

## 鷺洲軍団/大阪市

■ 阪急バス 長澤良樹さん  
ドッジボールを通して積極性や自主性、計画性などを身につけます。

## 堺西ボーイズ/堺市

■ 阪急トラベルサポート 坂口竜彦さん  
野球技術の向上はもとより、学業との両立ができるよう指導しています。

## フットボールクラブ コンパニエロ/尼崎市

■ 阪神電気鉄道 屋田昌徳さん  
サッカーで子ども達の心と体の成長を促し、健全な人間を育成します。



住吉台学びの会/篠山市  
■ 阪急電鉄OB 梶武夫さん

## 次世代を担う子ども達の成長を手助けしたい。

小学校2・3年生の子ども達と一緒に算数や国語を学び、特に体験を取り入れた学習に工夫を凝らしています。例えば子ども達だけで駄菓子屋で買い物をさせることで、計算だけでなく店員さんとの会話も学べます。父・母の日に手紙を渡すときに封筒を手づくりすることで、展開図も理解できます。また、先日の西日本集中豪雨について新聞や地図を活用し、災害・助け合いについて一緒に考えたりしました。他にも黒豆の収穫などの「体験」を通し、未来を担う子ども達が思いやりに満ちた人間に成長する手助けをしたいと仲間とがんばっています。



楽しみなから学ぶ必要性を感じてもらえたら嬉しいです。

# ゆめ・まち サバイバルキャンプ実施レポート

広域災害時に必要といわれている「自助」と「共助」(\*)の知識や技術を学ぶことを目的に企画した、ゆめ・まちサバイバルキャンプ。6月10日(日)、六甲山にある神戸市立自然の家(神戸市灘区)で実施し、グループ従業員とのお子さまを含め、34名が参加しました! 工夫を凝らしたさまざまなワークを通じて、災害時に使える知識・技術を実践的に学ぶことができました。

(※)広域災害発生時には、行政による救助等の「公助」には限界があるため、自ら身の安全を守る「自助」や地域コミュニティでの相互の助け合いである「共助」の重要性が指摘されています。



参加者の声!  
身の回りのもので災害時に役立つ知識を習得。災害時に人の助けになることの重要性も実感しました。さまざまなグループ社員とも交流できてよかったです!

## 阪神・淡路大震災についてのお話



被害状況や当時の人々の話を聞き、共助の重要性を感じました。

## サバイバルクッキング(自助・共助編)



チラシで「紙食器」をつくり、「空き缶炊飯」でお米を炊いて、サバカレーをつくりました。火おこしにもチャレンジしました!

## サバイバルワークショップ(共助編)



人命救助やテント張りなどに役立つロープワークを学びました。

協力:NPO法人 プラス・アーツ(第8回ゆめ・まち基金助成対象団体)



# 西日本豪雨

# 子ども達への緊急・復興支援レポート

「子どもの権利」が実現された世界をめざして、世界中で人道支援や保健・栄養、教育などの分野で活動するNGO団体セーブ・ザ・チルドレン。

その日本法人である「公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は、ゆめ・まちプロジェクトの活動のひとつである「クリスマスチャリティイベント(主催:株式会社阪急阪神ホテルズ)」の寄付先でもあります。

本年7月に西日本を襲った記録的豪雨による被害の拡大を受け、同団体がやっている被災地の子ども達やその家族のための緊急・復興支援活動についてご紹介します。

## セーブ・ザ・チルドレンの活動動向

7/6~8 「大雨特別警報」11府県で発表

7/9 子ども支援のニーズ調査を開始

これまでに国内の緊急支援に対応した職員などから構成される西日本豪雨緊急支援対応チームを立ち上げ、岡山県倉敷市真備町を中心に調査を開始。

「子どものための心理的応急処置」の周知を開始

誰もができる緊急下の子どもの心のケア「子どものための心理的応急処置」を、被災地で活用できるよう周知。研修やパンフレットの配布、特設サイト(www.savechildren.or.jp/lp/pfa/)での情報発信を行っています。

7/15・16 「子どもひろば」を実施

真備町の避難所に隣接した施設で、「子どもひろば」を実施。子ども達が同世代の子ども達との遊びや活動を通じて、被災による影響からの立ち直りを支える場です。風船遊びや粘土遊び、スタッフによる絵本の読み聞かせなどを行いました。

7/18 岡山県が実施する「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業に協力開始

岡山県が主体となって実施している事業の運営協力を開始。(8/31まで)

8/2 学童施設への備品提供を開始

被災地域の子どもを受け入れている放課後児童クラブ(学童保育)の施設に、救急セットやビニールプールなどの備品を提供しました。

9月以降も子ども達に寄り添った支援を実施しています

- 子どもの学用品支援 ●保育園再開に向けた備品支援
- 「子どものための心理的応急処置」の研修 など

西日本豪雨緊急支援最新情報はこちら

<http://www.savechildren.or.jp/lp/2018hr/>



写真 ©Save the Children



子どもに特化した緊急下の心のケアのパンフレット



子ども達の昼食も支援

## 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う民間・非営利の国際NGOです。約100年にわたり、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界をめざして活動する団体です。海外で緊急・人道支援、保健・栄養、教育などの分野で活動するほか、日本国内では東日本大震災や熊本地震など災害被災地での緊急支援をはじめ、子どもの貧困や虐待などの課題に取り組んでいます。活動に共感される方は、「寄付をする」もしくは「ボランティアスタッフとして参加する」という支援方法があります。詳しくはウェブサイト「ご支援・参加のお願い」ページまで。

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F TEL 03-6859-0070

URL <http://www.savechildren.or.jp>